

# 平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区名	住吉区
学校名	大阪市立墨江小学校
学校長名	酒井美幸

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

## 1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- ※ 理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全生徒
- ・墨江小学校では、第6学年 116名

## 平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- 国語、算数、理科とも平均正答率が、全国平均、大阪市平均を下回る結果となった。特に、国語 B（主として「活用」に関する問題）と理科については、全国平均から 6.6% の差が見られた。
- 3教科に共通する課題としては、記述式の回答を求める設問について正答率が低いことから「書くこと」に対して強い抵抗感を抱いていることが考えられる。また、無答率も全国・大阪市平均をやや上回っている。特に、記述式の回答でその割合が高い。
- 質問紙調査からは、達成感・自尊感情に関連する項目で肯定的な回答が低いことが伺われる。

## 分析から見えてきた成果・課題

### 教科に関する調査より

- 〔国語〕漢字を正しく読むことについては9割以上の正答率であるが、書き取りになると5～6割程度の正答率に留まっている。また、記述式で回答する設問の正答率が低くなっていることから、漢字の基礎基本の定着をさらに充実するとともに、あらゆる場面で「書く力」を高めていくための指導を工夫していく必要がある。
- 〔算数〕数量や図形についての知識・理解・技能面で、つまずきが多くみられる。作図などの活動を通して、図形を構成する要素に着目して図形の性質の理解を深めていくための指導の工夫を取り入れていくようにする。
- 〔理科〕「メスシリンダーの名称を問う問題」については全国平均に比べ約40%、「メスシリンダーの適切な扱い方を問う問題」については約20%下回る結果となった。子どもたち自らが必要な器具を選択して実験の準備をすることができるようにするとともに、器具の名称、扱い方についても合わせて理解できるような学習活動が望まれる。

### 質問紙調査より

- 質問紙調査「5年生までの授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」の質問で今年度肯定的な回答が全国平均にかなり近づいてきた。要因としては、伝え合う活動を通して自分の考えを様々な形態や方法（話す・書くなど）で表現する機会を増やしてきたこと、また、少人数、習熟度別指導の充実が考えられる。
- 「家で、学校の授業の復習をしていますか」「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の質問については全国平均を大幅に下回っている。家庭学習のあり方について、家庭と連携した取り組みが必要である。
- 「みんなで協力して何かをやり遂げる」といった連帯感や達成感を味わわせる取り組み、「みんなで話し合いながら整理して発表する」といった学習活動の充実が今後の課題である。

## 今後の取組

- 基本的生活習慣の充実・・・「朝食を毎日食べている」という回答で約10%、「起きる時刻が毎日同じくらい」という回答でも約13%それぞれ全国平均を下回っている。テレビやビデオ・DVDを見る時間についても全国平均よりも長い傾向にある。このことから、基本的生活習慣の見直しを今一度保護者に働きかけるとともに、連携した取り組みを進めていく必要がある。
- 道徳心・社会性の育成・・・「自分にはよいところがあると思いますか」「物事を最後までやりとげてうれしかったことがありますか」「将来の夢や目標を持っていますか」といった質問項目については、いずれも全国、大阪市平均を5～10%近く下回っている。成就感・満足感・将来の夢等を持たせるための取り組みの工夫が必要である。
- 家庭学習の充実・・・家庭での予習・復習、計画的な学習の習慣が、全国・大阪市平均に比べ低く定着していない傾向が見られることから、家庭学習の充実に向けた取り組みが必要である。
- 学級集団づくり・・・「みんなと協力して何かをやり遂げること」「友だち同士で話し合って学級のきまりを決めていくこと」など、集団づくりを通して学習への意欲を高めていく。